

## 編集後記

『戦史研究年報』第16号をお届けします。

今年度、防衛研究所はその前身である保安研修所が設置されてから60周年を迎えました。この記念すべき年にあたり、本号を「防衛研究所創立60周年記念特別号」として刊行致しますとともに、創立記念事業として実施された戦史セミナー「ベトナム戦争の再考—休戦40年の視点から—」の内容について掲載しました。

巻頭の「史料紹介」では、掲載論文関連史料の他に、60周年を記念して、防衛研究所が所在する目黒地区にかつて所在した旧陸軍砲兵工廠所轄「目黒火薬製造所」敷地図、また保安研修所創設のモデルとなったとされる「総力戦研究所」に関する史料を掲載しています。

「論文」は、戦史研究センター所属研究者による平成23年度調査研究成果の中から4篇を掲載しました。村上論文は、関東大震災時の旧軍の災害救援について、救援組織、軍隊・在郷軍人の活動等について史的検証を行ったものです。屋代論文は、太平洋戦争中の日本の「世界情勢判断」の策定過程について焦点を当て、戦争指導に資する「世界情勢判断」が客観性を喪失していった要因について考察したものです。高橋論文は、太平洋戦争開戦直前に海軍の人事運用が既に破たんしていたことを充員及び教育の観点から分析し、平時における戦時要員確保の困難性等について述べたものです。小山論文は、沖縄返還史の中でも、これまで研究が比較的少ない施政権返還前後の米軍基地の整理統合・縮小に焦点をあてたもので今日的意義を見据えた論文となっています。

「研究会記録」は、米国・スタンフォード大学フーバー研究所の林孝庭博士と英国・ウォルバーハンプトン大学教授スティーブン・バズウェイ博士の2つの研究会の記録を掲載しました。林博士の新視点からの論考、またバズウェイ博士の政治・戦略・作戦の相互作用についての論考等いずれも読み応えのあるものです。

「国際会議参加報告」は、ブルガリア共和国で開催されました第38回国際軍事史学会大会の概要及び同大会で岡田所員が発表した論文(英語)を掲載いたしました。戦時中の科学技術等が今日に与えた影響を述べた興味深い論文です。「活動報告」は、平成24年に戦史研究センターが実施した諸活動、史料閲覧室の閲覧状況などを掲載いたしました。

防衛研究所創立60周年という節目にあたり、私ども戦史研究センター一同、その任務である「戦史に関する調査研究、戦史の編さん及び戦史史料の管理・調査研究」の一層の充実を図るよう研鑽に努めて参る所存です。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

(日田 大輔)